

兼松サステック・環境パイル工法

JHSの第三者証明技術適用工法に

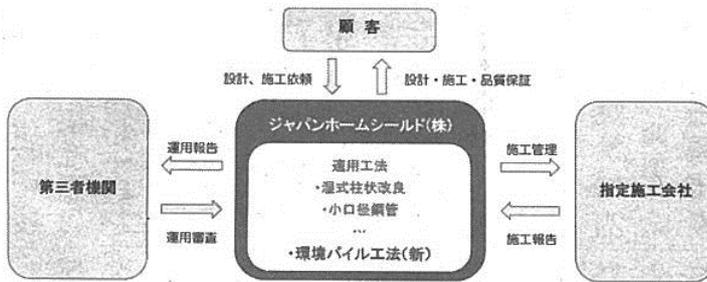
定期的な審査で信頼性高める

地盤調査・地盤改良事業など住宅・建材にかかわる業務を行う兼松サステック(東京都、高崎實社長)は、同社が運用する環境パイル工法が、ジャパンホームシールド(JHS)が建設技術審査証明を取得した第三者証明技術である複合地盤補強工法設計・施工運用システム(BL審査証明1023)の適用工法に加わったことを発表した。

この技術は、設計・施工管理・品質保証までの一連の運用システム。

住宅地盤調査・地盤補強工事を数多く手掛けるジャパンホームシールドが開発した画期的な運用システムである複合地盤補強工法設計・施工運用システム

【運用システムの概要】
<運用システムについて>
本運用システムの流れを全体概念図に示します。



の適用工法にラインアップされることで、第三者機関による定期的な運用審査がなされる。客観的に品質を確保することで、信頼性を高められると判断した。

複合地盤補強工法設計・施工運用システムの全体概念図は、杭状地盤補強の支持力(周面摩擦力)に杭間地盤反力を適切に加えることで合理的な設計を実現するもの。適用工法は、湿式柱状改良工法、小口径鋼管工法、既製コンクリートパイプ工法、第三者技術証明取得工法の4つがあり、環境パイル工法は第三者技術証明取得工法に加わった。複合地盤補強工法設計・施工運用システムにおける地盤補強工法はジャパンホームシールドの指定施工会社のみ施工が可能となっていたが、今回環境パイプ工法が適用工法に加わったことで、兼松サステックも指定施工会社となっている。